



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

K-1510

Applicant : Koji Kawaguchi et al
Title : COLOR CONVERSION FILTER, COLOR CONVERSION LAYER AND
COLOR CONVERSION LIGHT EMITTING DEVICE
Serial No. : 10/620,616
Filed : July 17, 2003
Group Art Unit : 1771
Examiner :

Hon. Commissioner of Patents
P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450

October 24, 2003

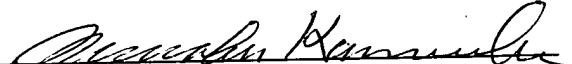
SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

Sir:

Submitted herewith is a certified copy of Japanese Patent
Application No. 2002-211703 filed on July 19, 2002.

Priority of the above application is claimed under 35 USC 119.

KANESAKA AND TAKEUCHI

by 
Manabu Kanesaka
Reg. No. 31,467
Agent for Applicants

1423 Powhatan Street
Alexandria, Virginia 22314
(703) 519-9785

ser. 10/620,616

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 7月19日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-211703

[ST.10/C]:

[JP2002-211703]

出 願 人

Applicant(s):

富士電機株式会社

2003年 7月 2日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎

出証番号 出証特2003-3052374

【書類名】 特許願

【整理番号】 02P01105

【提出日】 平成14年 7月19日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G02B 5/20

【発明の名称】 色変換フィルタ、色変換層およびそれらを用いた色変換
発光デバイス

【請求項の数】 9

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市川崎区田辺新田 1 番 1 号 富士電機株式
 会社内

 【氏名】 川口 剛司

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市川崎区田辺新田 1 番 1 号 富士電機株式
 会社内

 【氏名】 小林 誠

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市川崎区田辺新田 1 番 1 号 富士電機株式
 会社内

 【氏名】 桜井 建弥

【特許出願人】

 【識別番号】 000005234

 【氏名又は名称】 富士電機株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100077481

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 谷 義一

【選任した代理人】

 【識別番号】 100088915

【弁理士】

【氏名又は名称】 阿部 和夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100106998

【弁理士】

【氏名又は名称】 橋本 傳一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013424

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9707403

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 色変換フィルタ、色変換層およびそれらを用いた色変換発光デバイス

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 透明基板と、

該透明基板上に配置され、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、 dendritic マーを含む色変換層と、
を備えたことを特徴とする色変換フィルタ。

【請求項 2】 前記蛍光変換色素と前記 dendritic マーとは、共有結合を介して結合されていることを特徴とする請求項 1 に記載の色変換フィルタ。

【請求項 3】 前記 dendritic マーが、前記蛍光変換色素を包接していることを特徴とする請求項 1 に記載の色変換フィルタ。

【請求項 4】 マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、 dendritic マーとを含み、入射光を波長分布変換して出射することを特徴とする色変換層。

【請求項 5】 前記蛍光変換色素と前記 dendritic マーとは、共有結合を介して結合されていることを特徴とする請求項 4 に記載の色変換層。

【請求項 6】 前記 dendritic マーが、前記蛍光変換色素を包接していることを特徴とする請求項 4 に記載の色変換層。

【請求項 7】 発光部と、該発光部の発した光の波長分布変換を行う色変換部とを含む色変換発光デバイスにおいて、該色変換部が、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、 dendritic マーとを含むことを特徴とする色変換発光デバイス。

【請求項 8】 前記蛍光変換色素と前記 dendritic マーとは、共有結合を介して結合されていることを特徴とする請求項 7 に記載の色変換発光デバイス。

【請求項 9】 前記 dendritic マーが、前記蛍光変換色素を包接していることを特徴とする請求項 7 に記載の色変換発光デバイス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、高精細で、耐環境性および生産性に優れた多色表示を可能とする色

変換フィルタに関する。詳細には、イメージセンサー、パーソナルコンピューター、ワードプロセッサ、テレビ、ファクシミリ、オーディオ、ビデオ、カーナビゲーション、電気卓上計算機、電話機、携帯端末機ならびに産業用計測器等の表示用の色変換フィルタに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

近年、情報の多様化が急速に進んでいる。この中で、情報分野における表示デバイスは「美・軽・薄・優」が求められ、さらに低消費電力、高速応答化へ向けて活発な開発が進められている。特に、高精細なフルカラー表示デバイスの考案が広くなされている。

【 0 0 0 3 】

液晶表示素子等に対して、視野角依存性および高速応答性などに優れた下記の特徴を有する、有機分子の薄膜積層構造を有し、印加電圧 1 0 V で、 $1 0 0 0 \text{ cd/m}^2$ 以上の高輝度で発光する積層型有機エレクトロルミネセンス（以下、有機 E L と称する）素子が、Tang らによって報告（Appl. Phys. Lett., 51, 913 (1987)）されて以来、有機 E L 素子は実用化に向けての研究が活発に行われている。また、有機高分子材料を用いた同様の素子も活発に開発が進められている。

【 0 0 0 4 】

有機 E L 素子は定電圧で高い電流密度が実現できるため、無機 E L 素子または L E D と比較して高い発光輝度および発光効率が期待できる。また、表示素子としては、（１）高輝度および高コントラスト、（２）低電圧駆動と高い発光効率、（３）高解像度、（４）広視野角、（５）高応答速度、（６）微細化およびカラー化、（７）軽さおよび薄さ等の優れた特徴を有している。以上の点から、「美・軽・薄・優」なフラットパネルディスプレイへの応用が期待されている。

【 0 0 0 5 】

車搭載用の緑色モノクロ有機 E L ディスプレイが、パイオニア社により 1 9 9 7 年 1 1 月にすでに製品化されている。今後は、多様化する社会のニーズに応えるべく、長期安定性および高速応答性を有し、多色表示または高精細なフルカラー表示が可能な有機多色 E L ディスプレイの実用化が急がれている。

【 0 0 0 6 】

有機 E L ディスプレイのマルチカラー化またはフルカラー化の方法の 1 例は、赤 (R) 、緑 (G) 、青 (B) の 3 原色の発光体をマトリクス状に分離配置し、それぞれ発光させる方法である。特開昭 5 7 - 1 5 7 4 8 7 号公報、特開昭 5 8 - 1 4 7 9 8 9 号公報、および特開平 3 - 2 1 4 5 9 3 号公報などを参照されたい。有機 E L 素子を用いてカラー化する場合、 R G B の 3 種の発光材料をマトリクス上に高精細に配置しなくてはならないため、技術的に困難であり、および安価で製造することができない。加えて、3 種の発光材料の寿命 (輝度変化特性) がそれぞれ異なるために、長期間にわたる使用により色度がずれてしまうなどの欠点を有する。

【 0 0 0 7 】

また、白色で発光するバックライトにカラーフィルタを用い、3 原色を透過させる方法 (特開平 1 - 3 1 5 9 8 8 号公報、特開平 2 - 2 7 3 4 9 6 号公報、特開平 3 - 1 9 4 8 8 5 号公報等) が知られているが、高輝度の R G B 光を得るために必要な長寿命かつ高輝度の白色発光の有機 E L 発光素子は、未だ得られていない。

【 0 0 0 8 】

あるいはまた、発光体の発光を平面的に分離配置した蛍光体に吸収させ、それぞれの蛍光体から多色の蛍光を発光させる方法 (特開平 3 - 1 5 2 8 9 7 号公報等) も知られている。ここで、蛍光体を用いて、ある発光体から多色の蛍光を発光させる方法は、 C R T 、プラズマディスプレイらの応用に実績を有している。

【 0 0 0 9 】

また、近年では有機 E L 素子の発光域の光を吸収し、波長分布変換を行って可視光域の蛍光を発光する蛍光材料をフィルタに用いる色変換方式 (特開平 3 - 1 5 2 8 9 7 号公報、特開平 5 - 2 5 8 8 6 0 号公報等) が開示されている。有機 E L 素子の発光色は白色に限定されないため、より輝度の高い有機 E L 素子を光源に適用することができ、青色発光の有機 E L 素子を用いた色変換方式 (特開平 3 - 1 5 2 8 9 7 号公報、特開平 8 - 2 8 6 0 3 3 号公報、特開平 9 - 2 0 8 9 4 4 号公報等) においては、青色光を緑色光および赤色光に波長変換している。

このような蛍光色素を含む蛍光色素変換膜を高精細にパターンニングすれば、発光体の近紫外光ないし可視光のような弱いエネルギー線を用いても、フルカラーの発光型ディスプレイを構築できる。

【 0 0 1 0 】

カラーディスプレイとしての実用上の重要課題は、精細なカラー表示機能、色再現性を含めた長期的な安定性を有することに加えて、高い色変換効率を有する色変換フィルタを提供することである。

【 0 0 1 1 】

色変換効率の向上に関して、各所で活発な研究が行われており、例えば、特開 2 0 0 0 - 1 0 3 7 9 5 号公報に記載されるように、かさ高い置換基を導入したローダミン誘導体を用いて、赤色への変換効率を向上させることが検討されている。

【 0 0 1 2 】

【発明が解決しようとする課題】

色変換フィルタの色変換効率を向上させる上での主な問題点は、蛍光変換色素の含有量を大きくできないことである。蛍光変換色素の含有量を多くすると、いわゆる濃度消光によりその変換効率が急激に低下することが知られている。さらには、高濃度においては励起状態の蛍光変換色素が蛍光を放射して基底状態に戻るのではなく、該色素の分解を起こすという経路が知られている。したがって、高濃度の蛍光変換色素を用いる場合、初期段階で効率の最適化を行っても、使用するにつれて急激に色変換効率が低下してしまう。

【 0 0 1 3 】

したがって、本発明においては、含有量を大きくしても色変換効率が高く、かつ分解の起こらない色変換フィルタ用蛍光変換色素を提供すること、もしくは蛍光変換色素の色変換効率の低下および分解を抑制する構造を有する色変換層を提供することを目的とする。また、低含有量においても効率の高い色変換フィルタ用蛍光変換色素を提供することもまた、本発明の目的である。

【 0 0 1 4 】

【課題を解決するための手段】

本発明の色変換フィルタは、透明基板と、該透明基板上に配置され、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、 dendrimer とを含む色変換層とを備えたことを特徴とする。ここで、前記蛍光変換色素と前記 dendrimer とは、共有結合を介して化学的に結合していてもよい。あるいはまた、前記 dendrimer が、前記蛍光変換色素を包接していてもよい。

【 0 0 1 5 】

本発明の色変換層は、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、 dendrimer とを含む色変換層とを備え、入射光を波長分布変換して出射することを特徴とする。ここで、前記蛍光変換色素と前記 dendrimer とは、共有結合を介して化学的に結合していてもよい。あるいはまた、前記 dendrimer が、前記蛍光変換色素を包接していてもよい。

【 0 0 1 6 】

本発明の色変換発光デバイスは、発光部と、該発光部の発した光の波長分布変換を行う色変換部とを含む色変換発光デバイスにおいて、該色変換部が、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、 dendrimer とを含むことを特徴とする。ここで、前記蛍光変換色素と前記 dendrimer とは、共有結合を介して化学的に結合していてもよい。あるいはまた、前記 dendrimer が、前記蛍光変換色素を包接していてもよい。

【 0 0 1 7 】

【発明の実施の形態】

本発明の色変換フィルタ基板の一例を、図 1 に示す。図 1 において、透明基板 10 上に色変換層 20 が形成されている。

【 0 0 1 8 】

本発明の色変換フィルタに用いられる透明基板 10 は、光源の発光、または色変換層 20 によって変換された光のいずれかに対して透明であることが必要である。また、透明基板 10 は、色変換層 20 および他の必要に応じて設けられる層（後述）の形成に用いられる条件（溶媒、温度等）に耐えるものであるべきであり、さらに寸法安定性に優れていることが好ましい。透明基板 10 の材料として好ましいものは、ガラス、ならびにポリエチレンテレフタレート、ポリメチルメ

タクリレート等の樹脂を含む。ハウケイ酸ガラスまたは青板ガラス等が特に好ましいものである。

【 0 0 1 9 】

本発明の色変換層 2 0 は、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、デンドリマーとを含む。以下、それぞれの材料について説明する。

【 0 0 2 0 】

本発明の蛍光変換色素は、光源から発せられる近紫外領域ないし可視領域の光を吸収して波長分布変換を行い、異なる波長の可視光を蛍光として発光するものである。特に青色ないし青緑色領域の光を吸収することが好ましい。例えば、青色ないし青緑色の光を吸収して赤色領域の蛍光を発する色素、青色ないし青緑色の光を吸収して緑色領域の蛍光を発する色素、または近紫外領域ないし可視領域の光を吸収して青色の蛍光を発する色素などを、用いることができる蛍光変換色素として挙げることができる。

【 0 0 2 1 】

青色ないし青緑色領域の光を発光する光源を用いて、該光源からの光を単なる赤色フィルタに通して赤色領域の光を得ようとする、元々赤色領域の波長の光が少ないために極めて暗い出力光になってしまう。しかしながら、青色ないし青緑色の光を吸収する蛍光変換色素によって赤色領域の光に変換することにより、十分な強度を有する赤色領域の光の出力が可能となる。緑色についても同様である。また、青色に関しては、より短波長の青色光を吸収して、より長波長の好ましい色相を有する別の青色光に変換するために蛍光変換色素を用いてもよい。あるいはまた、紫外域の光を吸収して青色光に変換する蛍光変換色素を用いることも可能である。また、それぞれの色において、外光の入射による視認性の低下を防止する観点から、励起波長と蛍光波長との差の大きな蛍光変換色素を単独で用いることが好ましい。もちろん、出力光の波長および色相を調整することを目的として、2 種以上の蛍光変換色素を組み合わせ用いてもよい。

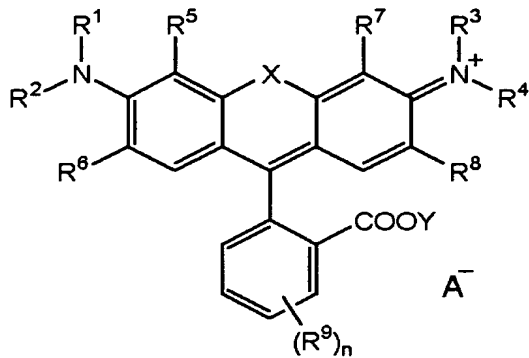
【 0 0 2 2 】

光源から発せられる青色から青緑色領域の光を吸収して、赤色領域の蛍光を発する蛍光色素としては、例えばローダミン B、ローダミン 6 G、ローダミン 3 B

、ローダミン101、ローダミン110、スルホローダミン、ベーシックバイオレット11、ベーシックレッド2などのローダミン系色素、シアニン系色素、1-エチル-2-[4-(p-ジメチルアミノフェニル)-1,3-ブタジエニル]-ピリジニウムパークロレート(ピリジン1)などのピリジン系色素、あるいはオキサジン系色素などが挙げられる。さらに、各種染料(直接染料、酸性染料、塩基性染料、分散染料など)も蛍光性があれば使用することができる。本発明に好ましく用いることができるローダミン系色素は、以下の一般式を有するものである。

【0023】

【化1】



【0024】

式中、 $R^1 \sim R^9$ および Y は、それぞれ独立に H、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のシクロアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルケニル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルキニル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のハロアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルコキシアルキル基、および $C_1 \sim C_{30}$ のアリアルアルキル基から成る群から選択され、および R^1 と R^5 、 R^2 と R^6 、 R^3 と R^7 、または R^4 と R^8 とが一緒になって5または6員環を形成してもよく；XはOまたはSであり；AはF、Br、I、 ClO_4 、 BF_4 、 $1/2 (ZnCl_4)$ から成る群から選択され；nは0～4の整数である。ここで、上記色素が dendrimer と化学的に結合する場合には、YがHであるか、あるいは $R^1 \sim R^9$ の少なくとも1つが、ハロゲン、OH、 NH_2 、またはCOOHで置換されていることが好ましい。

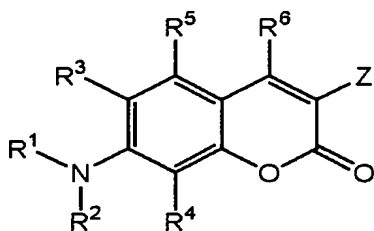
【0025】

光源から発せられる青色ないし青緑色領域の光を吸収して、緑色領域の蛍光を

発する蛍光色素としては、例えば 3-(2'-ベンゾチアゾリル)-7-ジエチルアミノクマリン (クマリン 6)、3-(2'-ベンゾイミダゾリル)-7-ジエチルアミノクマリン (クマリン 7)、3-(2'-N-メチルベンゾイミダゾリル)-7-ジエチルアミノクマリン (クマリン 30)、2, 3, 5, 6-1H, 4H-テトラヒドロ-8-トリフルオロメチルキノリジン (9, 9a, 1-g h) クマリン (クマリン 153) などのクマリン系色素、あるいはクマリン色素系染料であるベーシックイエロー 51、さらにはソルベントイエロー 11、ソルベントイエロー 116 などのナフタルイミド系色素などが挙げられる。さらに、各種染料 (直接染料、酸性染料、塩基性染料、分散染料など) も蛍光性があれば使用することができる。本発明に好ましく用いることができるクマリン系色素は、以下の一般式を有するものである。

【0026】

【化 2】

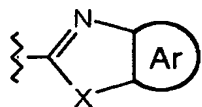


【0027】

式中、 $R^1 \sim R^6$ は、それぞれ独立に H、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のシクロアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルケニル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルキニル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のハロアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルコキシアルキル基、および $C_1 \sim C_{30}$ のアリールアルキル基から成る群から選択され、および R^1 と R^3 、 R^2 と R^4 および／または R^5 と R^6 とが一緒になって 5 または 6 員環を形成してもよく； n は 0～4 の整数であり； Z は、H、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のシクロアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルケニル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルキニル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のハロアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアルコキシアルキル基、 $C_1 \sim C_{30}$ のアリールアルキル基、および以下の式を有する複素環からなる群から選択され、

【0028】

【化 3】



【0 0 2 9】

XはO、NR⁷またはSであり；R⁷は、H、C₁～C₃₀のアルキル基、C₁～C₃₀のシクロアルキル基、C₁～C₃₀のアルケニル基、C₁～C₃₀のアルキニル基、C₁～C₃₀のハロアルキル基、C₁～C₃₀のアルコキシアルキル基、およびC₁～C₃₀のアリールアルキル基から成る群から選択され；Arは置換または無置換のベンゼン環およびナフタレン環から成る群から選択される。ここで、上記色素が dendrimer と化学的に結合する場合には、R¹～R⁷の少なくとも1つが、ハロゲン、OH、NH₂、またはCOOHで置換されていることが好ましい。

【0 0 3 0】

光源から発せられる近紫外ないし可視領域の光を吸収して、青色領域の蛍光を発する蛍光色素としては、例えばクマリン466、クマリン47、クマリン2、およびクマリン102などのクマリン系色素が挙げられる。さらに、各種染料（直接染料、酸性染料、塩基性染料、分散染料など）も蛍光性があれば使用することができる。

【0 0 3 1】

本発明における dendrimer は、Y字状の分岐を形成するモノマーが順次結合して形成される樹枝状分子を意味する。本発明の色変換層に用いることができる dendrimer は、蛍光変換色素を包接するかあるいはそれと化学的に結合して、色変換層中での蛍光変換色素同士の相互作用を抑制することが可能であることを条件として、任意の構造を有するものであってもよい。好ましくは、第4～第6世代の dendrimer を用いることにより、蛍光変換色素を包接して蛍光変換色素同士の相互作用を抑制することが可能となる。

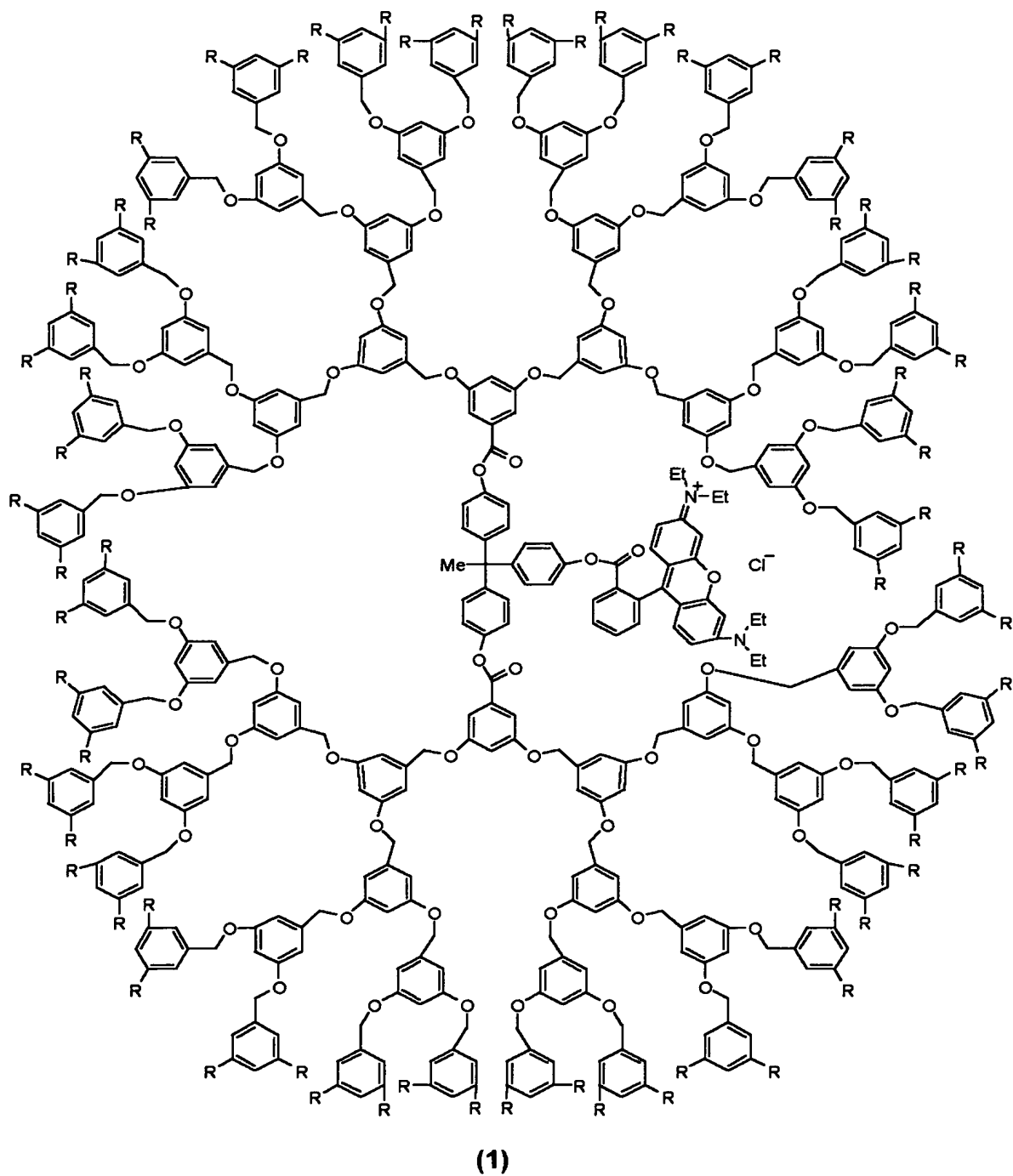
【0 0 3 2】

本発明の蛍光変換色素と dendrimer とが化学的に結合して、蛍光変換色素－dendrimer 結合体を形成してもよい。この場合には、蛍光変換色素と dendrimer

マーとが共有結合を介して結合することが好ましい。その一例として、ローダミンBと共有結合するためのコアとして1, 1, 1-トリス(4-ヒドロキシフェニル)エタンと、モノマーとして1, 3-ジヒドロキシベンジルアルコールを用いて形成された樹枝状部とを用いて形成される第5世代のデンドリマーと、ローダミンBとが共有結合で結合した蛍光変換色素-デンドリマー結合体を式(1)に示す(式中、Rはメトキシ基である)。

【 0 0 3 3 】

【化 4】



【0034】

上記のような蛍光変換色素－デンドリマー結合体は、当該技術に知られている任意の方法を用いて形成してもよい。例えば、デンドリマーの核となる成分と蛍光変換色素とを結合させたものに対して、別途合成したデンドリマーの樹枝状部

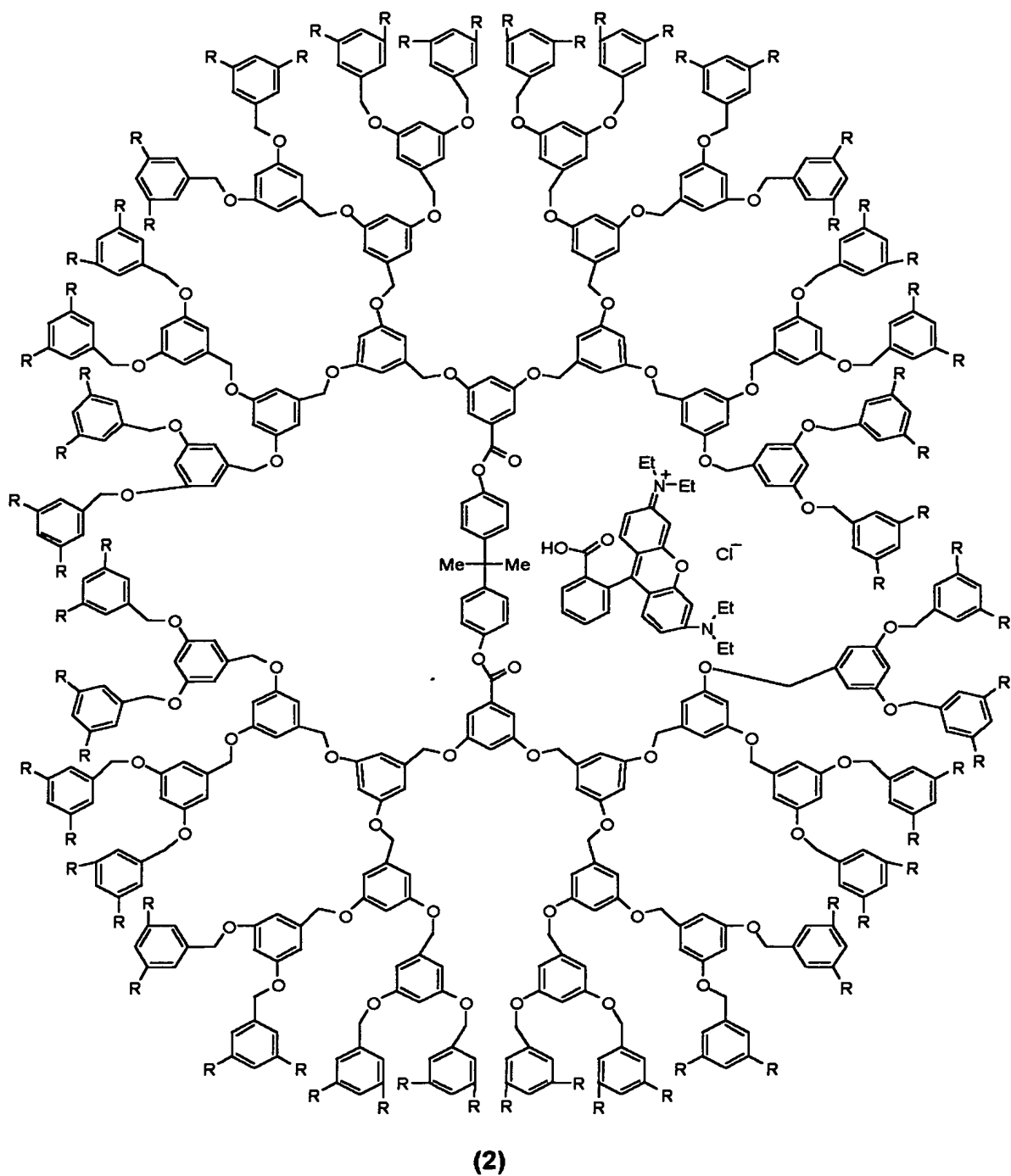
を結合させてもよい。あるいはまた、デンドリマーの核となる成分と蛍光変換色素を結合させ、その後に樹枝状部を成長させてデンドリマー構造を形成してもよい。このように蛍光変換色素-デンドリマー結合体を形成する場合には、その発色部位から離隔され、その蛍光特性に影響を及ぼさない部位にアルコール、アミン、カルボン酸、エステルなどの官能基を有する蛍光変換色素を用いることが、特に好ましい。また、前述の官能基を複数個有する蛍光変換色素を用いる場合、蛍光変換色素そのものをデンドリマーのコアとして用いてもよい。

【 0 0 3 5 】

あるいはまた、本発明の色変換層は、蛍光変換色素の周囲がデンドリマー分子の樹脂状部によって取り囲まれた、いわゆる包接状態にある蛍光変換色素-デンドリマー包接体を含んでもよい。蛍光変換色素-デンドリマー包接体は、蛍光変換色素とデンドリマーとを高濃度で含む溶液を形成することにより得られる。その一例として、モノマーとして1, 3-ジヒドロキシベンジルアルコールを用いて形成された樹枝状部を、コアであるビスフェノールAと結合させた第5世代のデンドリマーによって包接されているローダミンBを以下に示す（式中、Rはメトキシ基である）。

【 0 0 3 6 】

【化5】



【0037】

本発明において、用いられるマトリクス樹脂1g当たり2マイクロモル以上、好ましくは6～20マイクロモル、より好ましくは10～14マイクロモルの蛍光変換色素を用いることが好ましい。また、蛍光変換色素1モル当たり1モルの

デンドリマーを用いることが好ましい。マトリクス樹脂 1 g 当たり 0.5 マイクロモルを越えるような高濃度の蛍光変換色素を用いる場合、デンドリマーが存在しない状態では濃度消光および駆動に伴う急激な劣化が進行するが、デンドリマーが存在する場合には、デンドリマーが蛍光変換色素間の相互作用を抑制し、濃度消光および劣化を起こすことなく高効率で色変換を行うことが可能となる。

【 0 0 3 8 】

また、デンドリマーに結合したポルフィリンにおいて、該デンドリマーの樹枝状部が光を吸収した際に、吸収したエネルギーがポルフィリンへと分子内一重項エネルギー移動し、ポルフィリンから蛍光が発せられることが報告されている（化学と工業、53（2）、164（2000））。本発明の式（1）および（2）に示される蛍光変換色素-デンドリマー結合体または包接体においても、適当な樹枝状部を用いれば、この効果を発揮することが可能である。例えば、365 nm 付近の近紫外域を含む光源を用いる場合、樹枝状部に芳香族環（好ましくはベンゼン環）を有するデンドリマーを用いれば、デンドリマー樹枝状部が近紫外線を吸収して、一重項エネルギー移動により結合または包接した蛍光変換色素を励起することが可能である。この場合には、蛍光変換色素自身が吸収する波長の光に併せて、デンドリマー樹枝状部が吸収する波長の光をも利用することができるので、色変換効率の向上を期待できる。

【 0 0 3 9 】

本発明のマトリクス樹脂は、ポリメタクリル酸エステル、ポリ塩化ビニル、塩化ビニル-酢酸ビニル共重合樹脂、アルキッド樹脂、芳香族スルホンアミド樹脂、ユリア樹脂、メラミン樹脂、ベンゾグアナミン樹脂およびこれらの樹脂混合物などを含む。

【 0 0 4 0 】

あるいはまた、色変換層 20 をパターンニングする必要がある場合には、光硬化性または光熱併用型硬化性樹脂（レジスト）を用いることができる。この場合、光硬化性または光熱併用型硬化性樹脂（レジスト）の硬化物がマトリクス樹脂として機能する。また、色変換層のパターンニングを行うために、該光硬化性または光熱併用型硬化性樹脂は、未露光の状態において有機溶媒またはアルカリ溶液に

可溶性であることが望ましい。

【 0 0 4 1 】

用いることができる光硬化性または光熱併用型硬化性樹脂（レジスト）は、具体的には、（１）アクロイル基やメタクロイル基を複数有するアクリル系多官能モノマーおよびオリゴマーと、光または熱重合開始剤とからなる組成物、（２）ポリビニル桂皮酸エステルと増感剤とからなる組成物、（３）鎖状または環状オレフィンとビスアジドとからなる組成物（ナイトレンが発生して、オレフィンを架橋させる）、および（４）エポキシ基を有するモノマーと酸発生剤とからなる組成物などを含む。特に、（１）のアクリル系多官能モノマーおよびオリゴマーと光または熱重合開始剤とからなる組成物を用いることが好ましい。なぜなら、該組成物は高精細なパターニングが可能であり、および重合して硬化した後は耐溶性、耐熱性等の信頼性が高いからである。

【 0 0 4 2 】

本発明で用いることができる光重合開始剤、増感剤および酸発生剤は、含まれる蛍光変換色素が吸収しない波長の光によって重合を開始させるものであることが好ましい。本発明の蛍光変換フィルタ層において、光硬化性または光熱併用型硬化性樹脂中の樹脂自身が光または熱により重合することが可能である場合には、光重合開始剤および熱重合開始剤を添加しないことも可能である。

【 0 0 4 3 】

本発明の色変換層 2 0 は、マトリクス樹脂、蛍光変換色素、およびデンドリマーを含む溶液を調製し、それをスピンコート、ディップコート、ロールコート、スクリーン印刷など当該技術に知られている方法を用いて透明基板上に該溶液を塗布し、乾燥することにより形成される。前述のように、蛍光変換色素とデンドリマーとが化学的に結合して蛍光変換色素－デンドリマー結合体を形成していてもよい。あるいはまた、溶液調製時に蛍光変換色素およびデンドリマーを高濃度で混合することにより、蛍光変換色素－デンドリマー包接体を容易に調製することができる。

【 0 0 4 4 】

あるいはまた、光硬化性または光熱併用型硬化性樹脂、蛍光変換色素およびデ

ンドリマーを含む溶液を調製し、該溶液を透明基板上に塗布し、引き続いて露光、パターニングを行うことにより、パターンを有して配設された色変換層 20 を形成することができる。該パターニングは、未露光部分の樹脂を溶解または分散させる有機溶媒またはアルカリ溶液を用いて、未露光部分の樹脂を除去するなどの慣用の方法によって実施することができる。

【 0 0 4 5 】

本発明の色変換層 20 は、5 μ m 以上、好ましくは 8 ~ 15 μ m の膜厚を有する。このような膜厚を有することにより、所望の強度の色変換された出力光を得ることが可能となる。

【 0 0 4 6 】

本発明において、透明基板 10 上に単一または複数種の色変換層 20 を形成してもよい。複数種の色変換層 20 を形成する場合には、ある区域のみにそれ以外の区域とは別の色変換層を設けて、いわゆるエリアカラー表示用色変換フィルタを行ってもよい。また、赤 (R)、緑 (G)、青 (B) の色変換層を 1 組として、それらの組を透明基板 10 上に整列させて配設することによりディスプレイ用の色変換フィルタを形成してもよい。あるいは、模様、サイン、文字、マークなどに従って複数種の色変換層を配設して、それらを表示するようにしてもよい。あるいはまた、微小の区域に分割された適当な面積比で配設される 2 種の色変換層を用いて、単独の色変換層では達成できない単一色を示すようにしてもよい。

【 0 0 4 7 】

図 2 に、本発明のディスプレイ用色変換フィルタ 110 の一例を示した。この色変換フィルタ 110 は、図 2 においては、透明基板 10 の上に、赤 (R)、緑 (G)、青 (B) のカラーフィルタ層 30 R、30 G、30 B が設けられている。これらのカラーフィルタ層は、色変換層により変換された光の色相または色純度を最適化するために、必要に応じて設けられるものである。各色のカラーフィルタ層の上に赤、緑、青の色変換層 20 R、20 G および 20 B が設けられており、光源からの光は、色変換層 20、カラーフィルタ層 30、透明基板 10 の順に通過して外部に取り出される。また、黒色のブラックマスク 40 を各色の間に配設してコントラストの向上を図ってもよい。また、図 2 では、RGB 各色の色

変換層を設けた場合を示したが、青色から青緑色の光を放出する光源を用いる場合には、青色に関して色変換層を用いずに、カラーフィルタ層のみを用いてもよい。さらに、該光源の発光が緑色領域の光を十分に含むならば、該素子からの光を単に緑色フィルタのみを通して出力してもよい。

【 0 0 4 8 】

色変換層およびカラーフィルタ層の所望されるパターンは、使用される用途に依存する。赤、緑および青の矩形または円形の区域を 1 組として、それを透明基板全面に作製してもよい。あるいはまた、赤、緑および青の平行するストライプ（所望される幅を有し、透明基板 1 0 の長さに相当する長さを有する区域）を 1 組とし、それを透明基板全面に作製してもよい。特定の色変換層を、他の色の色変換層よりも多く（数的および面積的に）配置することもできる。

【 0 0 4 9 】

本発明の色変換発光デバイスは、発光部（光源）と色変換部とを有する。色変換部としては、前述の色変換フィルタまたは色変換層を用いることができる。発光部としては、近紫外から可視域、好ましくは青色から青緑色の光を発する任意の光源を用いることができる。そのような光源の例は、E L 発光素子、プラズマ発光素子、冷陰極管、放電灯（高圧ないし超高圧水銀灯）、発光ダイオード（L E D）などを含む。色変換部として図 1 に示される色変換フィルタ 1 0 0 を用いる場合、発光部は、色変換層 2 0 の側に配置されても、透明基板 1 0 の側に配置されてもよい。色変換部として図 2 に示されるカラーフィルタ層 3 0 を有する色変換フィルタ 1 1 0 を用いる場合、発光部は、色変換層 2 0 の側に配置される。あるいはまた、色変換部として色変換層そのものを使用する場合、該色変換層を光源の表面に直接積層してもよい。

【 0 0 5 0 】

本発明の色変換発光デバイスの一例として、色変換フィルタの貼り合わせによって形成されるトップエミッション方式の有機 E L ディスプレイを図 3 に示す。スイッチング素子として T F T 5 2 があらかじめ形成されている基板 5 0 の上に、平坦化層 5 4、下部電極 5 6、有機発光層 5 8、上部電極 6 0 およびパッシベーション層 6 2 からなる有機 E L 素子が形成される。有機 E L 素子を形成する各

層は、当該技術において知られている材料および方法を用いて形成することができる。一方、透明基板 10 の上に、青色、緑色および赤色のカラーフィルタ層 30B、30G および 30R と、デンドリマーを含む青色、緑色および赤色変換層 20B、20G、20R とが形成されている。また、各色変換層の間にはブラックマスク 40 が形成されている。次に有機 EL 素子と色変換フィルタとを、それらの間に充填剤層 64 を形成しながら位置合わせをして貼り合わせ、最後に周辺部分を外周封止層（接着剤）66 を用いて封止して、有機 EL ディスプレイが得られる。

【0051】

前述の有機発光層 58 は、近紫外から可視領域の光、好ましくは青色から青緑色領域の光を発する。その発光が色変換フィルタ層に入射して、所望される色を有する可視光へと波長分布変換される。有機発光層 58 は、少なくとも有機 EL 発光層を含み、必要に応じて、正孔注入層、正孔輸送層、および／または電子注入層を介在させた構造を有する。具体的には、下記のような層構成からなるものが採用される。

- (1) 有機 EL 発光層
- (2) 正孔注入層／有機 EL 発光層
- (3) 有機 EL 発光層／電子注入層
- (4) 正孔注入層／有機 EL 発光層／電子注入層
- (5) 正孔注入層／正孔輸送層／有機 EL 発光層／電子注入層

（上記において、陽極は有機 EL 発光層または正孔注入層に接続され、陰極は有機 EL 発光層または電子注入層に接続される）

【0052】

上記各層の材料としては、公知のものが使用される。青色から青緑色の発光を得るためには、有機 EL 発光層中に、例えばベンゾチアゾール系、ベンゾイミダゾール系、ベンゾオキサゾール系などの蛍光増白剤、金属キレート化オキソニウム化合物、スチリルベンゼン系化合物、芳香族ジメチリジン系化合物などが好ましく使用される。

【0053】

【実施例】

(実施例 1)

プロピレングリコールモノエチルアセテート (PGEMA) 溶媒 1 g 中に、ポリメタクリル酸メチル (PMMA) 1 g および式 (1) のローダミン B-デンドリマー結合体 97 mg (5.0 mg (10 マイクロモル) のローダミン B を含有する) を溶解させた。この溶液を、コーニングガラス (50 × 50 × 1.0 mm) 上にスピコート法にて塗布して、膜厚 10 μm の色変換層を有する色変換フィルタを得た。

【0054】

(実施例 2)

式 (1) のローダミン B-デンドリマー結合体 97 mg に代えて、式 (2) のデンドリマー部分 92 mg (10 マイクロモル)、および 5.0 mg (10 マイクロモル) のローダミン B を用いたことを除いて、実施例 1 を繰り返して色変換フィルタを得た。

【0055】

(実施例 3)

式 (1) のローダミン B-デンドリマー結合体 19 mg (1.0 mg (2 マイクロモル) のローダミン B を含有する) を用いたことを除いて、実施例 1 を繰り返して色変換フィルタを得た。

【0056】

(比較例 1)

式 (1) のローダミン B-デンドリマー結合体 97 mg に代えて、5.0 mg (10 マイクロモル) のローダミン B を用いたことを除いて、実施例 1 を繰り返して色変換フィルタを得た。

【0057】

(比較例 2)

式 (1) のローダミン B-デンドリマー結合体 97 mg に代えて、1.0 mg (2 マイクロモル) のローダミン B を用いたことを除いて、実施例 1 を繰り返して色変換フィルタを得た。

【 0 0 5 8 】

(評価)

各実施例および比較例にて、それぞれ3つのサンプルを作製して評価を行った。色変換フィルタの色変換層側に光源を配置して、波長450nm～510nmの光を照射した。ここで、色変換フィルタを通して出射した光の波長610nmの赤色成分の強度を測定した。実施例1における赤色成分強度を100とした相対値の評価結果を、初期強度として表1にまとめた。

【 0 0 5 9 】

次に、上記光源を用いて1000時間の連続照射を行った後に、波長610nmの赤色成分の強度を再度測定した。それぞれの実施例における連続照射前の赤色成分強度を100とした相対値の評価結果を、耐久性として表1にまとめた。

【 0 0 6 0 】

【表1】

	色素含有量 (マトリクス樹脂1g当たりのマイクロモル数)	初期強度	1000時間 連続照射後の 強度
実施例1	5	100	90
実施例2	5	95	84
比較例1	5	75	40
実施例3	2	90	84
比較例2	2	85	48

【 0 0 6 1 】

表1中、実施例1、実施例2および比較例1は、比較的高濃度のローダミンBを含有する色変換フィルタの比較である。デンドリマーを含まない比較例1において、初期強度が大きく低下しているのに対して、蛍光変換色素-デンドリマー結合体を含む実施例1、ならびに蛍光変換色素-デンドリマー包接体を含む実施例2においては、高濃度にもかかわらず色変換効率が高く、濃度消光が発生していないことが分かる。また、実施例1および実施例2に比較して、比較例1の耐

久性は著しく劣悪である。この結果は、デンドリマーを用いることにより、高濃度条件下の蛍光変換色素同士の相互作用を効率的に抑制し、色素の分解を防止することが可能であることを示すものである。

【 0 0 6 2 】

一方、実施例 3 および比較例 2 は、比較的低濃度のローダミン B を含有する色変換フィルタの比較である。本発明の蛍光変換色素－デンドリマー結合体を含む実施例 3 は、初期においてデンドリマーを含まない比較例 2 とほぼ同等の変換効率を示し、かつ比較例 2 よりも優れた耐久性を示した。この結果は、デンドリマーによる蛍光変換色素同士の相互作用の抑制によると考えられる。

【 0 0 6 3 】

【発明の効果】

以上のように、デンドリマーと化学的に結合した蛍光変換色素またはデンドリマーに包接された蛍光変換色素を用いることにより、濃度消光による変換効率の低下ならびに高濃度時の分解を起こすことなく、蛍光変換色素の含有量を増大させた色変換層を実現することができた。得られた色変換層は、優れた変換効率および耐久性を有した。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の色変換フィルタを示す概略断面図である。

【図 2】

本発明のディスプレイ用色変換フィルタの概略断面図である。

【図 3】

本発明の色変換を用いた有機多色 E L ディスプレイの概略断面図である。

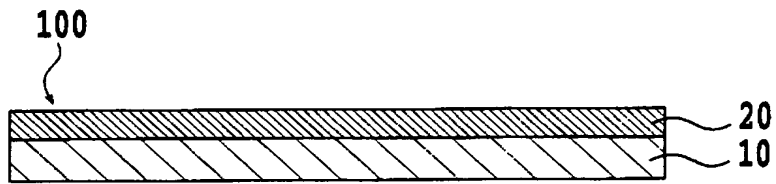
【符号の説明】

- 1 0 透明基板
- 2 0 (R, G, B) 色変換層 (赤色、緑色、青色)
- 3 0 (R, G, B) カラーフィルタ層 (赤色、緑色、青色)
- 4 0 ブラックマスク
- 5 0 基板

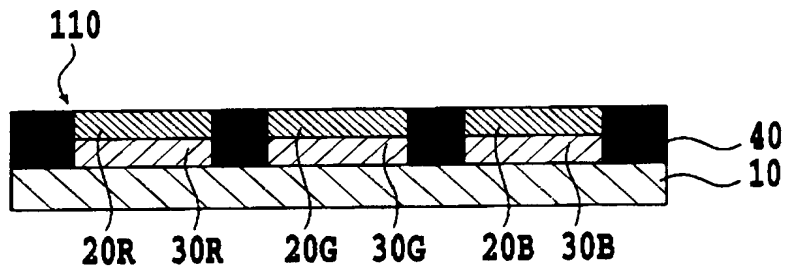
- 5 2 T F T
- 5 4 平坦化層
- 5 6 下部電極
- 5 8 有機発光層
- 6 0 上部電極
- 6 2 パッシベーション層
- 6 4 充填剤層
- 6 6 外周封止層
- 1 0 0 色変換フィルタ
- 1 1 0 カラーフィルタ層を有する色変換フィルタ

【書類名】 図面

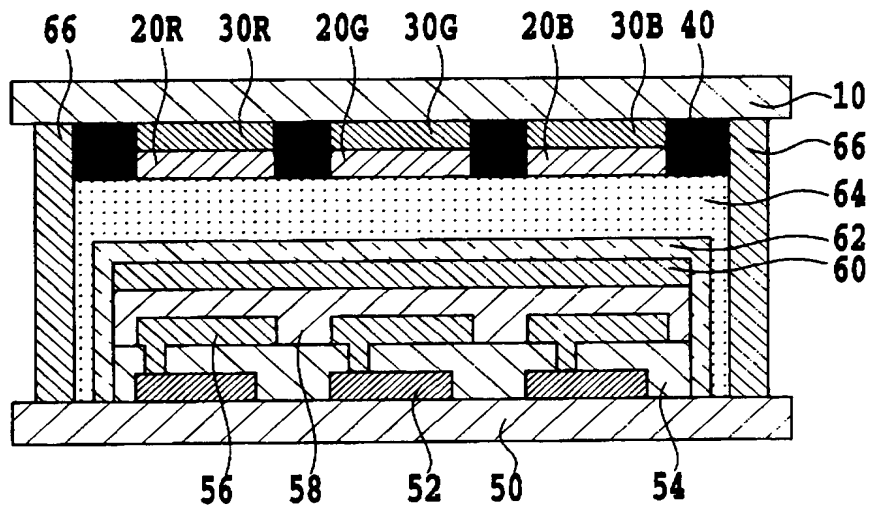
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 高濃度の蛍光変換色素を含有し、色変換効率が高く、かつ使用にともなう色変換効率の急激な低下を起こさない色変換フィルタの提供。

【解決手段】 透明基板と、該透明基板上に配置され、マトリクス樹脂と、蛍光変換色素と、デンドリマーとを含む色変換層とを備えたことを特徴とする色変換フィルタ。蛍光変換色素は、デンドリマーと化学的に結合してもよいし、あるいはデンドリマーにより包接されてもよい。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 2 3 4]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 9 月 5 日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県川崎市川崎区田辺新田 1 番 1 号

氏 名 富士電機株式会社